

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

平成 20 年 8 月に発足した本協議会は、大阪府下の建築士の団体である、(公社)大阪府建築士会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会、(一社)大阪府建築士事務所協会に加えて、(一財)大阪建築防災センター、(一財)大阪住宅センターと大阪府の 7 団体で構成しています。各団体から 3~4 名ほどの常任委員を出し、大阪府下の小中学校および教員の要請を受けて出前授業を実施しています。現在行っている「快適な住まい」というプログラムが第三者から見てどのように見えるのか、改善改良するところがどの程度あるのかを、客観的に評価していただきたいと考えている。

2. 学習予定の概要を (イ) (ロ) に触れながら以下の A. B. C. 3 点について記入してください。

(イ) 気づき (児童生徒に気づきをどう促すか)

日本・世界の様々な住まいの形態を見せ、暑い寒いを感じる要因を整理して、自分たちがどう工夫すればよいかを考え、議論してもらおう。

(ロ) 自ら調べ考える (児童生徒にどう考えさせるか)

事前に、日本・世界の様々な住まいの形態を見せ、暑い寒いを感じる要因を調べてもらい、導入部で発表してもらおう。

.....

A. 中心となる活動

授業名「快適な住まい」

B. 授業の狙いと特徴 (住生活向上の視点を含めてお書きください)

暑い寒いを感じる要因は何なのか、快適に暮らすために必要なこと工夫できることにどんなことがあるのか、電気のない時代の人たちはどのようにして工夫してきたのか、今の自分たちが出来ることにはどんなことがあるのか、自分たちの「暮らしやすさ」を見つけてもらいたい。

C. 学習の流れ (指導計画)

自然と家の話

気候や文化によって家の形や材料は大きく異なり、日本の中でも北海道と沖縄の家では全く別の考え方で建てられています。それらを比較しながら、その場所で快適に暮らす工夫を皆で考えていきます。そのあと用意した仮想の敷地図と建物の平面図を使い、太陽の動きと自分の住みたい・暮らしたい生活様式によってどのような配置にすれば快適に生活できるか自由に考えて、各自発表してもらいます。

3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関りについてお書きください。

「4 住まいと環境」日本のみならず世界の「住まい」が文化・風俗とどのように関係して環境に溶け込み、暮らしやすさをどのように求めて実現していったのかについて、探して調べてもらいたい。断熱性能を上げ、窓を小さくした環境と分断するエネルギー消費量を極限まで減らしていった暮らし方と環境を受け入れながら共生する暮らし方、どちらがより豊かな暮らしが実現できるのか、考えてもらいたい。

その他特記事項がありましたらお書きください。

- ・ 建築士が準備して、直接出向き授業をすることがもっとも特徴的だと考えています。
- ・ 授業の内容や進め方については、事前に担当教員と相談・検討を行って実施しています。
- ・ 教員に向けた授業コンテンツの整備、出前授業ができる建築士の拡充などのために、教材・授業マニュアルの充実を目指しています。

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。